

3 校内研修の充実

食物アレルギーに伴うアナフィラキシーショックの発症など、万一の場合に備え、全教職員が食物アレルギーに関する正しい知識を身につけるとともに、勤務校に在籍する食物アレルギーのある児童生徒の個々の情報を把握し、緊急時に適切に対応できるよう校内研修を実施しなければならない。

平成27年3月に文部科学省・(公財)日本学校保健会より学校に配布されたDVD研修資料や「ガイドライン要約版」等を活用するなどして、基礎知識習得のための研修や緊急時対応シミュレーション研修、エピペン®使用の実技研修などを定期的実施することが望ましい。

(1) 基礎知識習得のための研修

- 食物アレルギーの基礎知識
- 児童生徒の個々の病態・特徴や発症時の対応について
- エピペン®について

【参考】(公財)日本学校保健会「学校におけるアレルギー疾患対応資料」

<http://www.gakkohoken.jp/> (ポータルサイト「学校保健」内)



(2) DVDを活用した校内研修例

研修例1 「学校におけるアレルギー疾患対応について」 (研修時間の目安 2時間)

ねらい：学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方を理解するとともに、緊急時の対応ができるようにする。

1 研修資料と映像資料の視聴 (約50分)	
視聴	<ul style="list-style-type: none"> ○研修資料1：学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方 ○研修資料2：食物アレルギーに関する基礎知識 ○研修資料3：学校生活上の留意点 ○研修資料4：緊急時の対応 ○映像1：エピペン®の正しい打ち方 ○映像2：救急要請のポイント
2 映像3の視聴 (約5分) と話し合い	
視聴	○映像3「ミニドラマ：適切に対応できなかった例」 参加者は、視聴しながら適切に対応できていない箇所や改善点等をメモする。
話し合い	○視聴後、メモをもとに不適切な箇所や改善策について話し合う。
3 映像4の視聴 (約11分) とふり返り	
視聴 確認	○映像4「ミニドラマ：適切に対応できなかった例 (ふり返り用)」 ふり返りながら注意すべきポイントを確認する。 *必要な場合は、研修資料資料4：緊急時の対応を視聴する。
4 「緊急時の対応」、「食物アレルギー緊急対応マニュアル」の確認と検討	
確認 検討	○自校の「緊急時の対応」「食物アレルギー緊急対応マニュアル」の確認と改善点を検討する。 *ぜん息発作時の対応について確認する必要がある場合は、「学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドライン」(P21～36)を参考にする。

研修例2 「学校での食物アレルギー対応の留意点について」 (研修時間の目安 1時間)

ねらい：自校の食物アレルギー対応の留意点を確認し、適切に対応できるようにする。

研修の視聴 (約10分)	
視聴	<ul style="list-style-type: none"> ○研修3：学校生活上の留意点資料 ・「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」平成20年3月 ・「学校給食における食物アレルギー対応指針」平成27年3月文部科学省 ※必要な場合は、「研修資料1：学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方」「研修2：食物アレルギーに関する基礎知識」を視聴する。
学校給食提供に関する留意点の確認	
確認	○全体で学校給食提供に関する具体的な対策について、配慮や管理が必要な児童生徒の状況と合わせて確認する。
学校給食以外の活動に関する留意点の確認	
確認	○学年部、教科部ごとに、学校給食以外の活動(食物・食材を扱う授業・活動、体育・部活動などの運動、宿泊を伴う校外活動など)における留意点を確認する。

研修例3 「食物アレルギーの緊急時対応について（例1）」 （研修時間の目安 1時間）

ねらい：食物アレルギーの緊急時の対応ができるようにする。

プレゼン4の視聴（約7分）	
視聴	○研修資料4：緊急時の対応 ※必要な場合は、「研修資料1：学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方」「研修資料2：食物アレルギーに関する基礎知識」を視聴する。
緊急時の対応と役割分担等の確認	
確認	○自校の「食物アレルギー緊急対応マニュアル」の対応の流れと各自の役割分担、分担業務等を確認する。
検討周知	○課題等があった場合は、改善策を検討し、全教職員に知らせる。
映像1、2の視聴（約7分）	
視聴	○映像1：エピペン®の正しい打ち方 ○映像2：救急要請のポイント
緊急時対応訓練	
訓練	○実際に緊急時の対応をシミュレーションしてみる。 ・エピペントレーナーを使った正しい打ち方の実習 ・救急車要請の電話のかけ方、保護者への連絡の仕方

研修例4 「食物アレルギー緊急時対応について（例2）」 （研修時間の目安 1時間）

ねらい：食物アレルギーの緊急時の対応ができるようにする。

映像3の視聴（約5分）と話し合い	
視聴	○映像3「ミニドラマ：適切に対応できなかった例」 参加者は、視聴しながら適切に対応できていない箇所や改善点等をメモする。
話し合い	○メモをもとに不適切な箇所や改善策について話し合う。
映像4の視聴（約11分）とふり回り	
視聴 確認	○映像4「ミニドラマ：適切に対応できなかった例（ふり回り用）」 ふり回りながら注意すべきポイントを確認する。 ※必要な場合は、研修資料4（緊急時の対応）、映像1（エピペン®の正しい打ち方）、映像2（救急要請のポイント）を確認する。
緊急時の対応と役割分担等の確認	
確認	○自校の「食物アレルギー緊急対応マニュアル」の対応の流れと各自の役割分担、分担業務等を確認する。
検討	○課題等があった場合は、改善策を検討する。

※DVD「学校におけるアレルギー疾患対応資料」（文部科学省、(公財)日本学校保健会(平成27年3月))を活用

(3) 「エピペン[®]」使用の実技研修

エピペン[®]の正しい使い方について、エピペン[®]練習用トレーナーを使用して全教職員が習得する。

【参考】 ファイザー株式会社は、教職員・保育士・救命救急士を対象としたエピペン[®]講習会の主催者にエピペン[®]練習用トレーナーを無償で貸与している。
ファイザー株式会社ホームページ参照 (<http://www.epipen.jp/teacher/>)

(4) 緊急時対応シミュレーション研修(訓練)

① 消防署職員を招いての緊急時対応シミュレーション訓練例

(AEDを使った心肺蘇生訓練も兼ねた例)

【想定場面】 中学2年生男子、休日(土曜日)のサッカー部活動(学校の校庭、13時)
練習中、顔のかゆみを訴え、皮膚の紅潮、顔面のじんましん、腹痛あり

《本人から聞き取った内容》 ①エビのアレルギーあり
②昼食は12時にパンと友人からもらったカップ麺
③全身がかゆく、腹痛があり、呼吸も苦しい

《登場人物》 顧問教師、男子生徒、部員A・B・C
職員室でたまたま仕事中の教師A・B・C
消防署職員

【それぞれの立場で演じた後】

- ① 振り返り
- ② 消防署員からのアドバイス
(救急要請のしかたなど)
- ③ エピペン[®]使用の練習
- ④ 心肺蘇生法・AED・救急処置の実際
(消防署職員からの講話)
- ⑤ 講評(校長)
- ⑥ 感想記入

—研修のポイント—

- ・休業日の事故対応
- ・生徒の健康状態の把握
- ・事前の個別指導
- ・部員への事前説明・協力
- ・食物アレルギーによるアナフィラキシーの知識
- ・エピペン[®]の使い方
- ・救急車の呼び方

② アクションカードを使用した教職員の役割分担シミュレーション訓練例

参考：「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」平成 27.7 栃木市教育委員会

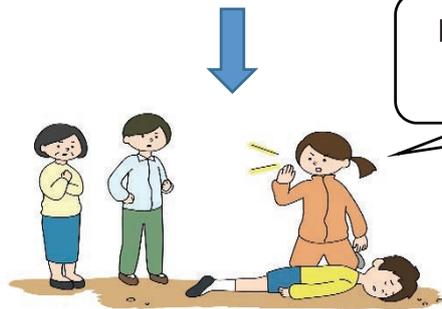
<訓練の流れ>

□緊急事態発生！



「大丈夫？」——状態の確認

□第一発見者は現場で対応



「誰か来てください」
——大声で人を集める

【対応の基準】

□意識明瞭、会話も可能で軽症→保健室に運ぶ

□呼びかけに反応がなく呼吸がなければ心肺蘇生開始

- ・胸骨圧迫 30 回、(気道確保)人工呼吸 2 回を絶え間なく
- ・ A E D

《日本小児アレルギー学会基準》

□次のひとつでもあればエピペン®を使用する

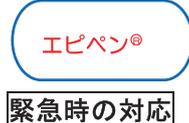
<ul style="list-style-type: none"> ・ぐったり ・意識もうろう ・尿や便を漏らす ・脈がふれにくい ・唇や爪が青白い ・我慢できない腹痛 	<ul style="list-style-type: none"> ・のどや胸がしめつけられる ・声がかすれる ・犬が吠えるようなせき ・息がしにくい ・持続する強いせき込み ・ゼーゼーする呼吸 ・繰り返し吐き続ける
---	--

① 駆けつけた人は、職員室に緊急事態発生を報告する

〇年〇組〇〇さんが
〇〇で、緊急事態です！



② 報告後、アクションカード(p.46)とAED、エピペン®、内服薬等と緊急時の対応表を持って現場に戻る。(何人かで分担しても可)



緊急時の対応

③ アクションカードを配り役割分担する。

④ 状況(症状の程度・種類)や役割を替えて、何度かシミュレーション訓練を行う。

① 救急車を要請する

<119番通報対応方法>

- ① 救急です。〇〇〇市〇〇町〇丁目〇番
〇〇〇学校です。食物アレルギーのある児童
がアナフィラキシーショックを起こしまし
た。児童は〇年生〇歳〇子、〇〇〇〇です。
- ② 今の症状は、〇〇（意識、呼吸の有無を含む）
です。
発症は〇時で、おこなっている応急処置は、
〇〇です。
- ③ 通報者の氏名は、〇〇です。
学校の電話番号は〇〇-〇〇〇〇〇〇です。

②

教職員を呼ぶ

- ・ 管理職
- ・ 学級担任
- ・ 養護教諭
- ・ 現場応援等

③ エピペン[®]を注射する

【次のひとつでもあればエピペン[®]を使用する】

- ・ ぐったり
- ・ 意識もうろう
- ・ 尿や便を漏らす
- ・ 脈がふれにくい
- ・ 唇や爪が青白い
- ・ 我慢できない腹痛
- ・ のどや胸がしめつけられる
- ・ 声がかすれる
- ・ 犬が吠えるようなせき
- ・ 息がしにくい
- ・ 持続する強いせき込み
- ・ ゼーゼーする呼吸
- ・ 繰り返し吐き続ける

エピペン[®]の使用方法はウラを見る！

- ① 利き手でエピペン[®]を持つ。
- ② エピペン[®]の青い安全キャップを外す。
- ③ 太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中よりやや外側に注射する。
- ④ エピペン[®]の先端（オレンジ色の部分）を軽くあて、「カチッ」と音がするまで強く押し当て、そのままゆっくり「10」（5秒間）数える。

★呼びかけに反応がなく呼吸がなければ心肺蘇生

- ・ 胸骨圧迫 30 回、(気道確保)人工呼吸 2 回を絶え間なく行う。
- ・ AED

④

保護者に連絡する

(裏面に緊急連絡先)

⑤

記録をとる

(裏面に記録表)

⑥

救急車を誘導する

(裏面に誘導方法)

⑦

他の児童生徒の指導

(裏面に指導内容)

(5) ヒヤリハット事例の共有

校内のヒヤリハット事例について、全教職員で情報を共有するとともに、対策を検討し事故防止の徹底に努める。

① ヒヤリハット事例の振り返り例

事例 小5男子児童 給食で初めてキウイフルーツを食べ体調不良を訴えた。

学校名・学年等	〇〇市立〇〇〇小学校 〇年〇組 〇〇 〇〇			男・女
発生日時	平成〇〇年 〇月 〇日 (〇) 〇〇:〇〇			
発生の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 給食 <input type="checkbox"/> 休み時間 <input type="checkbox"/> 授業中() <input type="checkbox"/> その他()			
救急車の要請	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		受診医療機関	〇〇〇〇病院
基礎情報	<input type="checkbox"/> 学校生活管理指導表 <input type="checkbox"/> 個別の取組プラン <input type="checkbox"/> 緊急時の対応 <input type="checkbox"/> 抗ヒスタミン薬() <input type="checkbox"/> ステロイド() <input type="checkbox"/> アドレナリン自己注射薬(エピペン)			
事例内容	<input checked="" type="checkbox"/> 初発 <input type="checkbox"/> 誤食 <input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> その他()			
アレルゲン	<input type="checkbox"/> あり()		<input checked="" type="checkbox"/> 受診後判明(キウイフルーツ) <input type="checkbox"/> 不明	
場所	発生状況と経過		対応と処置	
教室	<ul style="list-style-type: none"> ●給食の時間も後半に入り、最後のデザート(キウイフルーツ)を食べ始めたころ、1人の男子児童が学級担任に「のどが変な感じがします。」と訴えた。 ●「あまり変わらない。」と言って水道から戻った。 この時点で保健室に行かせていればもう少し早い対応ができたのではないかと... ●給食を片づけた後、軽い腹痛も訴えた。 		<ul style="list-style-type: none"> ●児童の訴えに学級担任は、「水道に行つてうがいをしておいで」と水道に行かせた。 キウイフルーツは、アレルギー症状を起こす可能性がある果物である。朝の打ち合わせ等で情報提供されているとよかったのでは... ●「<u>がまんでできなくなったら言いなさい</u>」と伝え席に戻した。 学級担任または児童の付添いをつけた方がよかったですのではないかと... ●「保健室でみてもらいなさい。」と一人で行かせた。 	
	保健室	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>のどの不調、腹痛</u>を訴え、来室。 ●給食中、キウイフルーツを少しだけ食べた後、のどが変な感じになったことがわかる。酸味があるものは苦手で、家でも食べたことがないが、少しだけ食べてみた、とのこと。 ●<u>少し咳</u>をしている。 児童の症状から緊急性の高いアレルギー症状であると思われる 血圧が低下している可能性があるため、歩かせてはいけない。 ●救急車が到着した際、ベッドから起きあがり、<u>歩いて救急車に向かった</u>ところ、途中でおう吐してしまった。 		<ul style="list-style-type: none"> ●顔色が悪いため、ベッドに横にさせる。 ●体温を測りながら、詳しい様子を聞く。 ●様子を聞きながら、キウイフルーツによる食物アレルギーの可能性があると判断。 ●すぐ校内電話で職員室に連絡したが、管理職は職員室にいない。<u>職員室にいる先生に学級担任・管理職に連絡に行ってもらおう。</u> 校内放送の方がより速く同時に人員が集められる。 緊急時に備え、AEDも準備! ●管理職が保健室に来てから、救急要請した。 ★学級担任は保護者に連絡した。
<ul style="list-style-type: none"> ●総合病院搬送。キウイフルーツ喫食によるアナフィラキシーショックと診断された。 				
【振り返りのポイント】				
<input type="checkbox"/> 予防策はなかったか。 <input type="checkbox"/> 時間のロスはなかったか。 <input type="checkbox"/> 校内体制は万全であったか。				

② ヒヤリハット事例とその対策例

【事例1】今まで食べても発症しなかったが、突然発症した例

原因物質：給食の茶わん蒸しに入っていたエビ

症状：じんましん、かゆみ、呼吸器症状

経過：放課後、陸上部の練習中、準備運動のランニングをしている時に全身にじんましんが出た。

他の部員に迷惑をかけたくないため、一人で部室に行き休んでいたところ、症状が悪化し、咳き込みや息苦しさを感じ動けなくなった。

心配で様子を見に来た部員に発見され、緊急搬送された。

病院での聞き取りや検査の結果、給食で食べた茶わん蒸しのエビが原因の食物依存性運動誘発アナフィラキシーと診断された。

これまで、アレルギー症状を発症したことがないため、学校生活管理指導表の提出はなかった。

対策：①食物アレルギー対応に関する教職員研修を実施し、児童生徒の情報を共有するとともに、校内の連絡体制を確認する。

②突然アレルギー症状を発症することもあるため、保護者会等で過去の事例を紹介し、食物アレルギーについて理解を得る。

③他の児童生徒(部員)にも事前に食物アレルギーについて指導し、協力を得る。

【事例2】経口免疫療法(減感作療法)中、登校時、遅刻しそうになり走ったところ発症した例

原因物質：5cm角のお好み焼き(小麦粉)

症状：じんましん、かゆみ

経過：小麦アレルギーの経口免疫療法(減感作療法)のため、主治医の指導のもと、1cm角から開始したお好み焼きを、その日は5cm角朝食で食べた。

登校中、遅刻しそうになり校門の手前200mから走って登校したところ、SHR中、顔面の発赤とかゆみの症状が出た。

すぐに携帯している内服薬を服用し、保健室で安静にして様子をみたところ症状が軽快した。

対策：①経口免疫療法(減感作療法)の実施の有無や経過を面談等でこまめに確認し、教職員で情報を共有する。

②経口免疫療法(減感作療法)中も、「原因物質を食べた後は運動を控える」ことを保護者及び本人と再度確認する。

③教職員は、児童生徒が原因食品を摂取する時間が登校前の時は、学校で発症する可能性を把握しておく。

(ヒヤリハットとは・・・)

- ・ヒヤリハットとは、幸い災害や事故には至らなかったが、直結してもおかしくない一歩手前の事象のこと
- ・ハインリッヒの法則によると、1件の重大な事故の裏には29件の軽微なミス、そして300件のヒヤリハットがあるとされている。

③ エピペン®の使用状況の振り返り

エピペン®を使用後に使用状況が適切であったか、また、誤射等があった場合は誤射の状況を検証し、対策を検討する等、以後の事故防止に努める。

《状況把握様式例》

アドレナリン自己注射薬（エピペン®）使用状況について

学 校 名			
発 生 日 時	平成	年	月 日 () :
発生の時間	<input type="checkbox"/> 給食	<input type="checkbox"/> 休み時間	<input type="checkbox"/> その他 ()
学年・性別	第	学年	組 男 ・ 女
救急車要請	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	
医療機関名	<input type="checkbox"/> 入院あり		
基礎情報	<input type="checkbox"/> 原因アレルゲン () <input type="checkbox"/> 学校生活管理指導表（アレルギー疾患用） あり ・ なし <input type="checkbox"/> 個別の取組プラン あり ・ なし <input type="checkbox"/> 緊急時の対応表 あり ・ なし		
処方薬	<input type="checkbox"/> 抗ヒスタミン薬 () <input type="checkbox"/> ステロイド () <input type="checkbox"/> アドレナリン自己注射薬（エピペン®） あり ・ なし		
注 射 状 況	□アナフィラキシー発症での注射状況		
	【状況の概要】 <input type="checkbox"/> エピペン®を注射した <input type="checkbox"/> エピペン®が処方されていたが、 学校で注射できなかった	【発症から医療機関受診までの経過】	
注 射 状 況	□誤射		
	【状況の確認】 <input type="checkbox"/> エピペン®を誤った取扱いで意図せず に注射した <input type="checkbox"/> 明らかな適応の誤り（アナフィラキシーでない） により本人に注射した <input type="checkbox"/> 誤って薬液が発射された （本人には注射されなかった） <input type="checkbox"/> その他 ()	【誤射の経過】	